

オーディオ実験室収載

バッハ盤を聴く(13)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(13)—

1. 始めに

前報(12)に引き続き、バッハのアナログ盤を聴き直していきます。

2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、今回は LINN LP-12 で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。

今回は、次のレーベルを聴いてみます。

TELEFUNKEN K2BC-183 (キングレコード)

J.S.バッハ フーガの技法

ベルリンフィル 12 人のチェロ奏者

TELEFUNKEN 6.42030

J.S.バッハ ヴァイオリン協奏曲 BWV1056

ヴァイオリン協奏曲 BWV1052

オーボエ協奏曲 BWV1055

ニコラウス・アーノンクール指揮ウィーンコンセルトウスムジクス

TELEFUNKEN SAWT 9443-B

J.S.バッハ 神の時は最上の時なり BWV106

天の君よ、お迎えします BWV182

レオンハルト合奏団

TELEFUNKEN SAWT 9442-B

J.S.バッハ 天より雨雪降るごとく BWV18

信仰の道を歩め BWV152

グスタフ・レオンハルト (チェンバロ) 他

3. バッハのアナログ盤の試聴結果

TELEFUNKEN キングレコード国内盤は、**ZANDEN** のリストでは、**DECCA**、**R**、第 4 時定数 **Mid** となっています。

TELEFUNKEN オリジナル盤は、**ZANDEN** のリストにありませんが、**TELDEC**、

R、第4時定数 Mid で聴いてみます。

フーガの技法は、デジタル録音との記載があります。DECCA、R、第4時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はなく、デジタル録音のためか、チェロの音に湿度感不足気味ですが、解像度よく深々とした12丁のチェロの響きを聴かせてくれます。

二つのヴァイオリン協奏曲とオーボエ協奏曲は、どれもお馴染みの曲で TELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はありません。ヴァイオリンはノンヴィブラートのガット弦の透明度の高い音がしますし、バロックオーボエも伸びやかで、バックはこれ以上の明晰さは考えられないようなアンサンブルを聴かせてくれます。

カンタータ BWV106 と BWV182 は、TELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はありません。ブロックフレーテは柔らかい音色で、ヴィオラ・ダ・ガンバとオルガンの通奏低音も明晰です。アルトやテノールやバスの歌唱は、明晰でありながら柔らかく響きます。

カンタータ BWV18 と BWV152 は、ELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はありません。アンサンブルは明晰でありながら柔らかく響き、通奏低音もしっかり下支えをしています。カンタータの女王と称されたアグネス・ギーベルの清らかなソプラノ、テノール、バスも生の歌唱を聴いているような自然さです。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上